

FLACSO (ラテンアメリカ社会科学部, アルゼンチン)

う さ み こう いち
宇佐見 耕 一

はじめに

- I 研究所の機構と運営
- II 研究部門
- III 大学院教育部門

ラテンアメリカ社会科学部 (Facultad Latinoamericana de Ciencias Sociales: FLACSO) は、1957年にUNESCOの提唱により設立された国際的な機関である。FLACSOを設立するための国際協定に調印した諸国は、アルゼンチン、ブラジル、ボリビア、コスタリカ、チリ、エクアドル、ホンジュラス、グアテマラ、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ドミニカ共和国、スリナムおよびウルグアイである。このうち実際に活動拠点がある国は、アルゼンチン、ブラジル、チリ、コスタリカ、キューバ、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、メキシコおよびドミニカ共和国である。

FLACSOの目的として以下の6点が掲げられている。(1) 現代ラテンアメリカにおける社会的な諸問題を批判的に研究する。(2) 大学院水準のコースにおいてラテンアメリカの社会科学の専門家を養成する。(3) 様々なメディア、政府や諸機関をととして域内に社会科学の知識、特にFLACSOにおける研究成果を普及させる。(4) 政府、研究機関および教育機関に科学的助言を行う。(5) 国立大学やその他の諸研究・教育機関と協力を促進する。さらに国際機関、地域機関、国立機関との協力も推進する。(6) 一

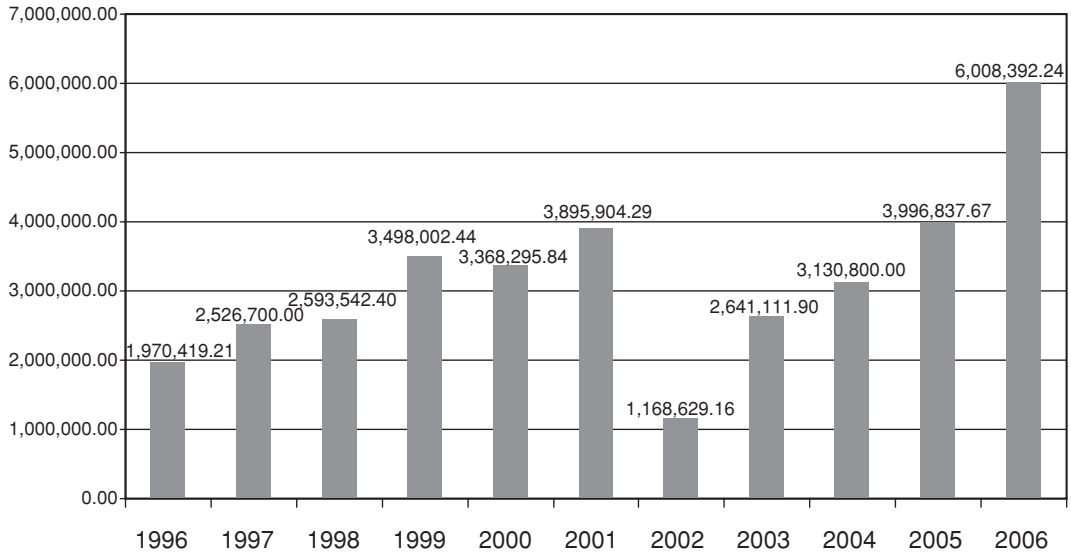
般に社会科学研究の推進は、発展とラテンアメリカ諸国の統合を促すことを目的としている。ここではアルゼンチンのブエノスアイレスにあるFLACSOを紹介する。

I 研究所の機構と運営

アルゼンチンFLACSOは、1974年に設立され、大学院修士課程、博士課程および研究部門を有し、国立ブエノスアイレス大学のような巨大機関と比べると小規模ではあるが、質の高い大学院教育と研究を行っていることで評価が定着している。

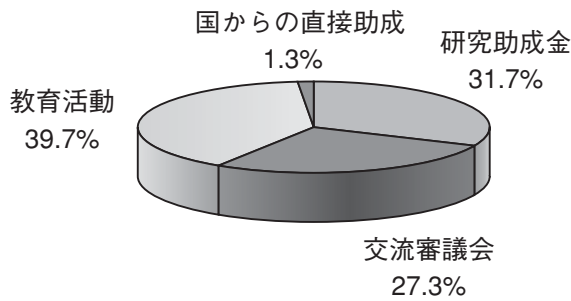
FLACSOの運営は、所長以下現在7名のメンバーで構成される学術審議会 (Consejo academico) で審議される。また大学院全体のコーディネーターの下に各プログラムのコーディネーターがおり、大学院全体および各プログラムの調整を行っている。アルゼンチンFLACSOの年間予算は、2002年に経済危機によりドルベースで約117万ドルにまで低下したが、2006年には約600万ドルにまで回復している。また、2006年の予算の収入源は、31.7パーセントが研究費助成金、27.3パーセントが交流審議会、39.7パーセントが教育活動より得ており、政府からの支援はわずか1.3パーセントにすぎない。とはいえ、研究者・教員の多くが後に述べるように CONICETの研究員や奨学生を兼ねていること

図1 予算の推移 1996～2006年 (USドル)



(出所) FLACSO (2006, 143)。

図2 予算の収入源の比率



(出所) FLACSO (2006, 143)。

から、人件費の多くを国から得ていることになる。また、研究費も CONICET の支援を受ける場合が多く、実際の国からの支援は、直接的支援を大きく上回るものと考えられる。

II 研究部門

研究部門は、経済・技術領域、教育学領域、政治学領域、ジェンダーの社会と政治領域およ

表1 経済・技術領域の研究スタッフ

コーディネーター	Eduardo Basualdo	CONICET研究員
主任研究員	Daniel Azpiazu Eduardo Basualdo Rosalía Cortes Hugo Nochteff	CONICET研究員 CONICET研究員 CONICET研究員
副主任研究員	Enrique Arceo Karina Forcinito	
研究員	Nicolás Arceo Joon Hee Bang Nicolás Bonofiglio Matías Kulfas Carolina Nahón Cecilia Nahón Julieta Pesce Martín Schorr	休職中 CONICET奨学金受給 CONICET奨学金受給 CONICET研究員

(出所) FLACSOのウェブサイト。

び国際関係領域の5部門からなる。経済・技術領域を例にとると、応用統計情報プログラム、対外債務・資本逃避プログラム、所得分配・労働市場・社会政策プログラム、経済統合を中心とした国際経済プログラム、経済発展・資本蓄積モデルプログラム、アルゼンチンにおける工業化プログラム、国営企業民営化・その業績・規制プログラムがある。各研究プログラムでは研究チームを形成して研究に当たっており、アルゼンチンにおける工業化プログラムをみるとDaniel Azpiazu, Eduardo M. Basualdo, Hugo J. NochteffおよびMartín Schorrといったアルゼンチンにおける同分野で業績のある研究者が参加している。また、経済・技術研究領域のスタッフは、以下のように構成されている。

各領域の研究スタッフはコーディネーター、主任研究員 (investigador principal), 副主任研究員 (investigador asociado), 研究員 (investigador) から構成される。このうちCONICETとは、国

家科学技術研究審議会 (Consejo Nacional de investigaciones Científicas y Técnicas) が正式名称で、人文・社会・自然・農学・工学・医学部門における研究補助、研究所の運営を行うと同時に公募したCONICET独自の研究員制度をもつ連邦政府の機関である。CONICETの研究員になるには公募による審査を経て任命され、下記の5つのカテゴリーに分かれている。CONICETの研究員になるとCONICETより給料が支給される。アルゼンチンでは大学や研究機関の給与は安いので、CONICETの研究員になると生活面では安定するので、多くの研究者がCONICETでの研究員ポストの獲得を目指している。また、CONICETは、若手研究員に奨学金も給付しており、若手研究員の育成にも力を入れている。

表2 2001年におけるCONICET研究員のカテゴリーと人員

カテゴリー (investigador)	人員	%
助手 asistente	680	19
準研究員 adjunto	1,328	38
独立研究員 independiente	969	28
主任研究員 principal	426	12
上級研究員 superior	110	3
合計	3,513	100

(出所) CONICETのウェブサイト。

CONICET研究員になるには公募による審査をパスしなければならない。CONICET研究員に応募する資格は、大学院の学位あるいはそれに相当する経歴を有すること。また、科学・技術発展のための公的あるいは民間の機関に所属しており、所属機関責任者よりCONICETの規則を遵守することに異存がない旨の証明が必要となっている。CONICETには評価・昇進委員会があり、研究者の評価と昇進に関して審議を行うが、評価に関しては部門別の委員会が存在している。例えば上級研究員への昇進には、主任研究員のポストの最低6年間在籍し、CONICET理事会が任命する16人からなる学際的委員会により審査・承認されることが必要となっている。

FLACSO研究部門の研究成果は、FLACSO自身により出版されることがあるが、多くが外部出版となっている。また、研究者の外部雑誌への投稿も多い。ワーキングペーパーは2006年に7点出版されているほか、政策提言用報告書も9点出版されている。前述した経済・技術領域の近年の研究業績としては、『アルゼンチン経済史研究——20世紀半から現在まで——』[Basualdo 2006]、『アルゼンチンの工業モデル

——その限界と可能性——』[Schorr 2005]、『工業と国家——アルゼンチンにおける経済権力・ネオリベラリズム・最工業化のための代案——』[Schorr 2004]、『1980年代におけるアルゼンチンの新経済権力』[Azaiz, Basualdo and Khavisse 2004] などがある。

III 大学院教育部門

1. 社会科学博士課程

FLACSOの最大の目的のひとつは、ラテンアメリカにおける社会科学分野での研究者の育成であり、大学院課程はFLACSOの中心部門といってよいであろう。また、FLACSOの目的が研究者の養成であるため、FLACSOの教育課程は学部をもたない大学院大学となっている。教員組織は博士課程長の下、6人の教員からなる運営委員会が存在する。その下に常勤教員21人、客員教員15人が在籍している。客員教員は皆ブエノスアイレス大学や国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会等の教育・研究機関を本務とした一流の人材をそろえている。教員の専門は、政治学、経済学、社会学、教育学、心理学、人類学、地理学など社会科学を中心とした幅広い

領域をカバーしている。

博士課程入学の条件は、社会科学分野における修士号所有者であり、推薦状2通の提出が必要となっている。社会科学博士課程の教育システムは、混合教育システムと呼ばれており、チューターの指導の下に研究を進める手法と、特定のコースに入りそのカリキュラムに沿って研究を進める手法がある。コースは前述した経済・技術研究領域、教育研究領域、政治学研究領域に加えて、生命倫理プログラム、コミュニケーション・プログラム、農業研究プログラム、参加型計画と協調的運営プログラム、その他3コースがある。各研究領域は、そのなかでいくつかのコースがある。経済・技術研究領域では経済・社会開発研究所 (Instituto de Desarrollo Económico y Social: IDES) と共同で、(1) アルゼンチンにおける人口の動態と変容コース、(2) 世帯収支調査を基にした経済・社会指標コース、(3) Stata 経済データベース利用入門コース、(4) SPSS 社会データベース処理コース、(5) 社会科学への応用統計コース、(6) 統計分析におけ

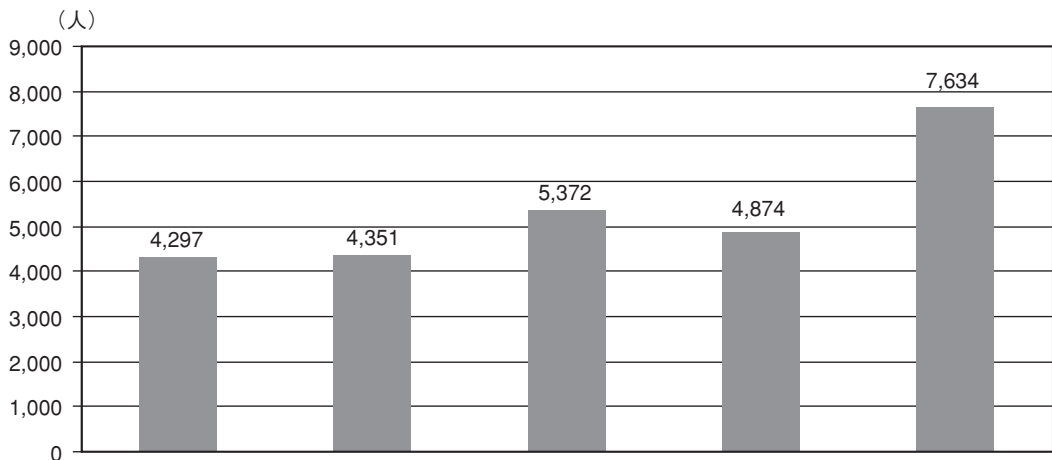
るSPSSデータベース利用コースがある。

博士課程は3年間でセミナー、論文セミナー、および授業を受け、4年目に博士論文を提出することが基本となっている。セミナーは、学生に研究の必要に応じて柔軟に設定されるようになっている。博士論文の審査は、博士論文審査委員長の下2名から3名の教員で構成される審査員会で審査することになる。また論文提出後、博士候補学生は審査委員会に出席し、提出論文に関しての質問に対して応対する場が設定されている。FLACSOでは2006年に、24名が博士号を取得している。

2. 修士課程

FLACSOは修士課程として、政治学・社会学、国際関係・ビジネス、社会政策・プログラム策定、政治経済・アルゼンチン経済、教育学、認知心理学、教育行政、学校のカリキュラム・実践、構成主義と教育、社会・政治人類学、農業社会学、ジェンダーの社会と政治のコースがある。修士課程の修学年数は2年間であり、研究者として博士課程進学を目指す者、行政職に就

図3 大学院の学生数推移 (2002~2006年)



(出所) FLACSO (2006, 145)。

職を目指す者、また専門家を目指す者が対象とされる。

そのうち一例をあげると、2006年の国際関係・ビジネス・コース1年に在籍する学生は37名で、平均年齢が26歳である。そのうちアルゼンチン人が28人、他のラテンアメリカ諸国からの留学生が6人、アメリカ1人、ヨーロッパ1人となっており、域内からの留学生の比率が高い。図3はFLACSOの修士課程と博士課程に在籍する学生の推移であり、2006年には7634人大学院学生が在籍している。

文献リスト

- Azpiazu, Daniel, Eduardo Basualdo and Miguel Kavisse
2004. *El nuevo poder económico en la Argentina de los años 80*. Buenos Aires : Siglo XXI.
- Basualdo, Eduardo 2006. *Estudios de historia económica argentina : Desde mediados del siglo XX a la actuali-*

dad. Buenos Aires : FLACSO/Siglo XXI.

FLACSO 2006. *Informe de Actividad 2006 : FLACSO Argentina*. Buenos Aires : FLACSO.

Schorr, Martín 2004. *Industria y nación : Poder económico, neoliberalismo y alternativas de reindustrialización*. Buenos Aires : Edharsa.

——— 2005. *Modelo nacional industrial : Límites y posibilidad*. Buenos Aires : Editorial Capital Intelectual.

<インターネット>

FLACSOのウェブサイト <http://www.flacso.org.ar/>
(2007年7月25日アクセス)

CONICETのウェブサイト <http://www.conicet.gov.ar>
(2007年7月25日アクセス)

[付記] 本報告はFLACSOのウェブサイトおよび2006年版年報 [FLACSO 2006] を主要資料として執筆した。

(アジア経済研究所地域研究センターラテンアメリカ研究グループ長)